

千屋断層学習館を訪問しました

陸羽地震（1896 年 8 月 31 日発生，マグニチュード 7.2）から今年でちょうど 130 年になります。この地震は，横手盆地東縁断層帯と真昼山地東縁断層帯が，ずれ動いたことによる地震であり，地震時には両断層帯に沿って地震断層が出現したことが知られています。横手盆地東縁断層帯の一部である千屋断層では，1982 年に東京大学地震研究所の松田時彦先生を中心とした研究グループがトレンチ調査（活断層の掘削調査）を行って以来，多くの研究が行われています。また，この千屋断層の断層崖やトレンチ跡は，学術的にも貴重であるとして，国指定の天然記念物に指定されています。このトレンチ跡近くの坂本東嶽邸の敷地内には，秋田県美郷町教育委員会によって千屋断層学習館が整備されており，陸羽地震時の写真をはじめとして，活断層に関して学習することができます。

「活断層」という用語は，1927 年に多田文男博士が論文で用いたことが最初であるとされていますが，活断層の研究が活発化したのは 1960 年代以降であり，1980 年には「日本の活断層」（東京大学出版会）が発行され，日本に分布する活断層について，位置・長さ・動きのタイプなどに関する情報がカタログ化されています。これ以降にも「新編 日本の活断層」（1991 年），「活断層詳細デジタルマップ」（2002 年），「活断層詳細デジタルマップ 新編」（2018 年）などにより，活断層のカタログが更新されてきており，2026 年 1 月には「日本の活断層総覧」が発行されました（いずれも東京大学出

版会から発行)。

「日本の活断層」から「活断層詳細デジタルマップ 新編」に関わってこられた今泉俊文 東北大学名誉教授, および「日本の活断層総覧」の編者の1人である楮原京子准教授 (山口大学), 「日本の活断層総覧」の著者の1人である岡田真介准教授 (岩手大学・地域防災研究センター) らは, 2026年9月9日に千屋断層学習館を訪問し, 秋田県美郷町に「日本の活断層総覧」を謹呈すると共に, 学習館の利活用に関する意見交換を行いました。

坂本東嶽邸・千屋断層学習館 HP :

<https://www.town.misato.akita.jp/archive/contents-1166>

日本の活断層総覧 :

<https://www.utp.or.jp/book/b10140188.html>



写真1：記念撮影の様子。中央は松田知己 美郷町長，写真右側に向かって，今泉俊文 東北大学名誉教授，楮原京子 准教授（山口大），岡田真介准教授（岩手大・地域防災研究センター）。



写真2：坂本東嶽邸敷地内の千屋断層学習館。



写真3：千屋断層学習館の近くのトレンチ掘削跡。案内板と天然記念物の石碑がある。写真左側にはトレンチ掘削跡が保存されている。